

# 小田原TOPICS

## 小田原城北工業高校と大井高校の統合 新設校の校名決定「小田原北高等学校」

県教育委員会が進めている県立高校の再編計画において、小田原城北工業高校と大井高校の統合による新設校の名称が「**小田原北高等学校**」に決定されました。

新校は、城北工業高校の敷地を活用し、2026年度に開校予定です。普通科（不登校生などを受け入れるクリエイティブスクール）と工業科を併設した学年制全日制高校となり、定時制課程も引き続き募集が行われます。統合にあたっては、両校の伝統や特色ある教育内容を継承し、資料や物品の保管・展示も整備される予定です。

今後も、少子化に対応しつつ、地域の教育環境の充実に向けた取り組みが続けられていきます。

## 自動運転の実証実験が小田原市内で

2025年3月、神奈川県・小田原市と株式会社本田技術研究所は「自動運転技術を活用した地域循環共生圏の実現に向けた実証実験協定」を締結しました。小田原市内で6月から自動運転車両を用いた移動サービスの実証を行い、高齢者や交通弱者の移動支援、観光振興を図るとしています。併せて、可搬型外部給電器や蓄電池を活用した再生可能エネルギーの地産地消や非常用電源利用も検証。神奈川県のゼロカーボン施策と連携し、脱炭素社会実現と運転手不足などの地域課題解決を目指します。期間は令和13年3月末まで。

## KOUGEI EXPO誘致が決定

令和8年度の「伝統的工芸品月間国民会議全国大会（KOUGEI EXPO）」の開催地が神奈川県に決定しました。本大会は、伝統的工芸品の普及を目的に経済産業省等が主催し、例年全国各地で開催されているものです。本県で指定されている伝統的工芸品は「箱根寄木細工」「小田原漆器」「鎌倉彫」の3品目であり、今回の開催決定を受け、式典は小田原市三の丸ホール、懇親会は箱根町で実施されることになりました。これにより、地元工芸品の魅力発信や観光振興が期待されます。なお、県議会予算委員会において、当初横浜市内での開催が検討されていた中、産地である小田原・箱根での開催を地元議員として強く要望し、今回の地元開催につながりました。これからも地元木工業の振興に努めてまいります。

## おざわ良央 —Photo News—



街頭演説会



河野太郎さんを  
囲んで



県議会議員と



ソフトボール審判の  
皆様と



スポーツ指導者の  
会合にて



会議を主導

# Yoshinaka Press

## 神奈川県議会議員 議会報告 2025.JULY Vol.29

# おざわ良央

よしなか

発行：おざわ良央事務所 〒250-0042 神奈川県小田原市萩窪166  
☎0465-35-0001 📠0465-35-4666 🌐ozawayoshinaka.com

## 着実に歩む！

日頃よりおざわ良央の諸活動に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本年も折り返し点を迎え、神奈川県政においても重要な議論が続いております。物価高騰が続く、特に米の価格上昇が家計に深刻な影響を与えるなど、県民生活の不安が一層高まっています。こうした現状に対し、生活の安心と地域経済の安定を守るため、県議会を通じて具体的な対策を提案し続けてまいります。

2月には一般質問に立ち、小田原・県西地域の課題を中心に質問を行いました。地域医療の体制強化、交通インフラの整備、防災対策の強化など、現場の声を反映した実効性ある施策を求め、県当局との真剣な議論を交わすことができました。

また、この5月より議会運営委員会の委員に就任、議会全体の円滑な運営に責任を持つ

立場となりました。加えて、文教常任委員会副委員長、予算委員会理事にも就任し、教育や財政の分野においても県民の安心につながる政策の推進に力を注いでまいります。

小田原をはじめとする県西地域には、少子高齢化や地域経済の活性化、自然災害への備えなど多くの課題が山積しています。今後とも皆様や現場の声を丁寧にお聞きし、一つひとつの課題に向き合い、県政の場で成果を出してまいります。

引き続き、皆さまの温かいご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 今年度の新役職が決定！

### 神奈川県議会

- 議会運営委員会 委員
- 文教常任委員会 副委員長
- 予算委員会 理事
- 安全安心・未来環境特別委員会 委員
- 議会改革検討会議 委員

神奈川県 神奈川県都市計画審議会 委員

自民党 神奈川県連 副幹事長



議会運営委員会

# 県議会 一般質問 報告

## 神奈川県議会議員 おざわ良央

### 誠実に懸命に！

2月、県議会一般質問を行いました。多勢の支援者に駆け付けていただいた中で、小田原市や県西地域が抱える諸課題について、黒岩知事や所管局長、教育長と質疑応答を重ねました。その概要をご報告させていただきます。

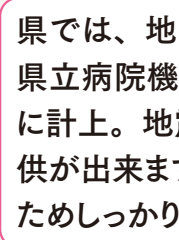


本紙に記載できなかったおざわ良央の質疑応答の全文は動画でご覧いただけます。おざわ良央の声で問う、神奈川の問題点・改善点です。ぜひご確認ください。

#### 1 県西地域の医療提供体制の強化について



県西地域において、今後も質の高い医療提供体制を確保するためには、基幹病院を中心に、地域の医療機関の連携を一層強化すべきと考えるが県としてどのように取り組むのか。



県では、地域全体がデジタルでつながる体制を目指して、県立病院機構・足柄上病院と連携、必要経費を当初予算に計上。地震等の災害時にも、継続した医療サービスの提供が出来ます。今後も引き続き、県西地域の皆様の安全のためしっかりと取り組みます。

知事



小田原市立病院等の地域医療機関や市町等との密な意見交換等、丁寧により強力に進めるよう要望します。



#### 2 難聴者への補聴器購入費支援について



18歳以上の軽度・中等度難聴者には国や県の補聴器購入費補助がなく、18歳未満で補助を受けた人も成人後には自己負担が大きくなり、費用の負担で補聴器の購入を断念し、生活や社会参加に支障が出る懸念がある。こうした状況を踏まえ、18歳以上も補助対象に含める制度の拡充が必要ではないか。



国へ年齢を問わない補助制度創設を要請。「県聴覚障害者福祉センター」等で、聴覚障害者の生活をしっかり支援します。

福祉子ども  
みらい局長



県として18歳未満で補聴器補助を受けた方には18歳以上になっても引き続き、補聴器購入の補助を受けられるように県の補助制度の拡大を求めます。

#### 3 小田原市水産市場の再整備について



小田原市水産市場の再整備に向けた小田原市の取組みに対して、漁港管理者として県はどのように支援するのか。

漁業関係者等の意見を十分に聞き、場所選定等、市場の再整備へ向けて小田原市へ協力し、県民の皆様への新鮮な水産物の安定的、持続的な供給を支援します。

環境農政  
局長

#### 4 企業立地支援の地域偏在解消への取組を問う



地域別企業立地支援は横浜49件、県央地域42件に対し県西地域9件、企業立地の地域偏在解消にどのように取り組むのか？

企業立地の少ない県西地域へ、今年度から生産用機械機器製造業等の立地を目指して支援内容を拡充。市町と連携をし、企業訪問する等積極的に誘致活動に取り組みます。

産業労働  
局長

#### 5 伊豆湘南道路について



渋滞緩和により観光振興、物流の効率化が図られ、災害時の代替路になるが現在と今後の取組は？

学識者による委員会で、ルート上に温泉の源泉や活断層が多数あり、また富士山噴火の被害想定から、圏域内の広域的な幹線道路ネットワークの一部としての機能が重要とされました。今年度の委員会からは、国の参画も得て具体化へ向けしっかりと取り組みます。

県土整備  
局長

#### 6 県西での建築確認等申請者の利便性向上について



県は、DXを積極的に活用する等して、申請者の利便性向上に取り組むべきと考えますが。

県の電子申請システムを活用し、事前相談等できる準備を、この3月から開始。また窓口での待ち時間短縮に、県西土木事務所と同じ閲覧交付システムの小田原土木センターへの導入も検討していきます。

県土整備  
局長

#### 7 公立学校の児童・生徒の近視予防について



国の近視実態調査を踏まえ、児童・生徒の近視予防に県教育委員会はどのように取り組むのか？

国調査では、近年の近視増加は遺伝より生活習慣などの影響大とのこと。そこで学校の休み時間の「運動遊び教育」実施、保護者への「運動遊び通信」でのお願い等、子ども達の近視予防にしっかりと取り組みます。

教育長

#### 8 県立の工業高校の今後の産業人材育成について



今後の時代を担う産業人材の育成に工業高校での学習内容の改善・充実やイメージしやすい学科名変更が必要と考えるが？

産業技術短期大学やIT企業等と連携し、実践的な技術の習得を学ぶ等、時代の求める産業人材の育成に務めてまいります。

教育長